

農林水産技術会議（11月25日開催）における重点目標（案）に関する委員指摘事項への対応方向

委員指摘事項	対 応 方 向
<p>1. 「農業・農村の所得増大等に向けて」となっており、農業者の方しか向いていないように見えるのではないか。</p>	<p>(1) <u>将来にわたり、国民に安全で良質な農産物（食料）を安定的に供給していくためには、輸入や備蓄を適切に組み合わせつつ、国内の農業生産を増大させていくことが基本であり、現在、このための施策として食品の安全性確保等による食料消費の改善、望ましい農業構造の確立や担い手の育成、農地の確保及び有効利用、新技術の開発・普及等の施策を総合的に講じているところ。</u></p> <p>(2) こうした中で、昨今の我が国農業・農村の現状を見渡すと、<u>農業生産額の漸減による農業所得の大幅な減少、農業従事者の減少や高齢化の急速な進展、耕作放棄地の増大といった形で国内の農業生産力が大幅に低下してきており、こうした動向が今後も継続すれば、国民への安全で良質な食料の供給にも将来深刻な影響が生じかねない危機的な状況。</u></p> <p>(3) このため、<u>農業所得の増大等を通じて、若者たちが希望の持てる魅力ある産業に農業を生まれ変わらせることが喫緊の課題であるとの認識の下、平成25年12月に決定された「農林水産業・地域の活力創造プラン」及び昨年6月に決定された『『日本再興戦略』改訂2014』では、それぞれ「農業・農村の所得倍増を目指す」旨が明記。また、昨年12月に決定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても、人口減少の克服と地方創生の実現に向け、「地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする」ための施策の柱として、「農林水産業の成長産業化」が掲げられているところ。</u> <u>この実現に向けて農業生産現場が抱える課題にブレースクルーをもたらずような画期的な農業技術の開発が現在求められている状況。</u></p> <p>(4) このため、今般の農林水産研究基本計画では、</p> <p>① <u>まず、「生産現場が直面する課題を速やかに解決するための研究開発」を推進することにより、こうした政策要請に的確に対応するとともに、</u></p> <p>② <u>他方で、今後の社会経済動向や自然環境の変化を見通して、「中長期的な視点から戦略性を持って着実に推進すべき研究開発」として、将来の高齢化社会における消費者の食料消費ニーズを先取りした研究開発等も着実に推進することとしているところ。</u></p> <p>(5) ご指摘を踏まえ、今後、研究基本計画原案の作成において、今般の重点目標（特に、上記②の領域）が実現されることにより、どのように国民がその恩恵を裨益し得るかといった視点から書きぶりを工夫しよう、特に意を用いて参りたい。</p>

委員指摘事項	対 応 方 向
2. 消費者に届くまでの流通の部分の研究が必要ではないか。また、消費者への啓発、食育の観点が必要ではないか。	<p>「生産現場が直面する課題を速やかに解決するための研究開発」の作目別の生産流通事情を踏まえつつ、必要に応じて鮮度保持技術などの加工・流通技術を加筆することとしたい。</p> <p>消費者への啓発、食育の観点については、<u>研究基本計画の施策編（資料2「新たな農林水産研究基本計画の構成（案）」の「国民理解の促進」等）</u>において、<u>食に関するリテラシー向上の重要性やそれに向けた取組について、記述を検討したい。</u></p>
3. 30の重点目標の中から、特に重要な課題をポイントアップすべき。	<p>農林水産研究は、<u>国民の食料消費の改善や農林漁業の発展・持続化、農山漁村の振興等の広範な政策領域に対応する必要があるため、今後10年程度を見通して取り組むべき研究開発の重点目標についても一定のボリュームとならざるを得ない。</u></p> <p>今後、限られた予算の中で重点目標にどのように優先順位を付け、どのように実現していくかについては、本計画策定後に農林水産技術会議の御意見を伺いながら、毎年の予算要求で検討して参りたい。</p>
4. 生産現場が直面する課題を解決する研究開発については、これまでも見たような課題が多い。どこまで進んで、これから何をどこまでやるのか明らかにする必要がある。	<p>「生産現場が直面する課題の解決のための研究開発」の各重点目標については、それぞれの分野における研究開発のこれまでの<u>主な成果を検証した上で、未解決の課題に重点化して取り組むこと</u>としており、今後5年間で何をどこまで進めるかについては、<u>重点目標毎に具体的な成果目標を設定すること</u>としたい。</p>
6. 将来を楽しみにできる研究、夢のある研究を掲げるべき。	<p>各重点目標について、<u>将来を楽しみにできる研究、夢のある研究であることが理解できるような記述振り</u>を工夫して参りたい。</p>